

「第二十五回庭野平和賞」 総裁挨拶

本日は、「第二十五回庭野平和賞」の贈呈式にあたり、（主なご来賓の名前を挿入）をはじめ、多くのご来賓のご臨席を賜り、あつく御礼申し上げます。

今年度の庭野平和賞を、ヨルダン王国のエル・ハッサン・ビン・タラール王子殿下にお贈りできますことは、当財団にとりまして大変光栄なことであります。

現在、私は、世界の諸宗教者による連合組織であるWCRP（世界宗教者平和会議）の活動に参画し、国際委員会の共同会長という立場にございます。ハッサン王子殿下は、一昨年八月までの七年間にわたり、WCRP国際委員会の実務議長を務めておられました。その意味で私は、今回の受賞者であるハッサン王子殿下に対して、深い敬意と共に、特別な親近感を抱いているものであります。

WCRP世界大会の開催は、これまで八回を数えております。一九九九年には、ヨルダンのアンマンで「第七回世界大会」が開かれました。イスラーム圏では、初めての開催でございました。その際、ハッサン王子殿下は、約千人に及ぶ諸宗教者の受け入れに全面的な協力をしてくださり、大会を成功に導かれました。実務議長の就任もお引き受けになり、以降、二〇〇六年の京都での「第八回世界大会」まで、WCRPを牽引してこられたのであります。

実務議長としてハッサン王子殿下は、諸宗教間の対話を推進されると同時に、「実効性のある行動」の大切さを促してこられました。現在、WCRPが、世界各地で起きている紛争などの諸課題に対して具体的なプロジェクトを展開し、「行動するWCRP」を目指しているのも、ハッサン王子殿下のリーダーシップがあつてこそのことと申せます。

また、王子殿下という立場におられながらも、常にオープンな姿勢で、誰とでも触れ合われるご様子は、WCRPに集う者にとって、まさにお手本となるものでございました。

先ほどもご紹介がありましたように、ハッサン王子殿下は、紛争和解、人権擁護、軍縮、環境など、多くの分野の活動に携わり、数々の国際組織で要職を担っておられます。その行動力、精神性、お人柄が、世界中の人々から絶大な信頼を得ている表れでありましょう。

とりわけハッサン王子殿下は、活動を進めるに際して、何よりも「生命の尊厳」を守ることに心血を注いでこられました。しかも、その尊厳は、あまねく、平等に保障されなければならないということを、強い信念としておられます。

「生命の尊厳」については、すでに、さまざまな機会に語られていることであり、誰もが頭では理解していることかもしれません。我が家族の生命を大事にしたいとの思いは、人間に共通するものでありましょう。同様に、我が民族、我が国民の尊厳についても、大半の人々が強く願っていることであります。

しかし、それがひとたび「他者」「他民族」「他の国家」となったとき、人々の意識は、一気に鈍ってしまうといわれます。特に歴史的な経緯、政治的な思惑などから、相対的、対立的な見方が定着し、世界では「生命の尊厳」にも不平等、格差が生じていると指摘されています。

そうした中、ハッサン王子殿下は、イスラームの教えと自らの深い信仰を基盤に、他者を尊重し、争いと分断の続く世界に和解をもたらすようリーダーシップを発揮しておられます。「神の前では、民族・国籍・職業・性別などは一切関係なく、完全に平等である」というイスラームの教えを、身をもって示し、行動されているのであります。

宗教者は、自らの信仰に忠実であればあるほど、他宗教に不寛容となり、対立さえもたらすという誤った見方もございます。しかし、信仰の本質を突き詰めていくなれば、やがては、すべてに通じる真理に行き着くのであります。

インドのマハトマ・ガンディー翁は、『神が真理であるというよりは、真理が神である』という言葉を残されています。

宗教によって表現が異なるとしても、根底には、普遍の真理があり、それを見極め、共有することから、一切のいのちに注がれていく本当の愛、本当の慈悲が生まれるのでありましょう。

その真理に、私どもが本当の意味で「帰依」するとき、そこには、もはや対立など存在致しません。真理に「帰依」する心、「帰依」する姿勢の中で、宗教者は自ずと一つになると信ずるのであります。

自らの信仰に忠実であればあるほど、本来宗教者は、他者に寛容となる――ハッサン王子殿下は、そのことを証明してくださっているのではないのでしょうか。

仏教の法華経に、『世間の法に染まざること 蓮華の水に在るが如し』という一節がございます。

世間の汚れに染まらない清らかな姿は、あたかも蓮の花が泥水の中で咲きながら、少しも泥水に汚されていないのと同様である、との意味であります。

世の中には、さまざまな価値観があります。政治や経済、歴史などの捉え方も、国や地域によって大きく異なります。そうした現実の世界に生きながらも、世間の価値観に染まることなく、厳正な真理を貫き通すことが、宗教者に求められる根本的な姿勢ではないかと受けとめております。ハッサン王子殿下が、まさに、その手本を示してくださっていることに、深く敬意を表する次第であります。

一昨年に行われた「第八回WC R P世界大会」の開会式の席上、ハッサン王子殿下は、次のように述べられました。

「インターネットによる人間のつながりから、インナーネット、心の中のつながりにシフトしなければならない」

「多元主義を支持し、謙虚な心で、相手は自分よりも上だと思いなさい。他者の立場をまず考えなさい」と。

この貴重なご提言を、会場の皆さまと共に、改めて心に刻み込みたいと思います。

自己中心の価値観が、国家や民族、社会や個人に根強く残る中、ハッサン王子殿下へ向けられる期待は、今後ますます大きくなっていくに違いありません。

本日の贈呈式を契機として、ハッサン王子殿下の願いと行動を、より多くの人々が共有することを期待し、またハッサン王子殿下がご健康で、一層ご活躍くださることを祈念して、あいさつと致します。

皆さま、ありがとうございました。